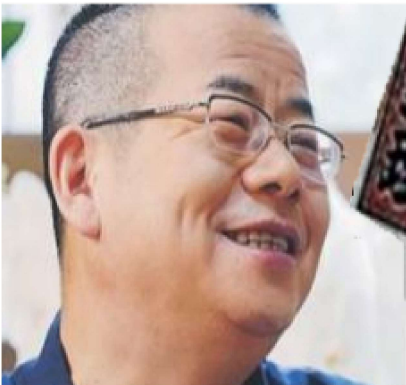


＜桂文珍 落語的見聞録＞地震で壊れないものを大切に

2024/1/18 05:30



阪神・淡路大震災から29年になり、時の流れの早さと裏腹に、あの恐怖が今も鮮明に思い出される。

今年は安穏な1年であることを祈った元旦から能登地方で大きな地震、被害に遭われ、ずっと避難生活を強いられている皆さんに、お見舞いを申し上げたい。連日その被害が鮮明になるほど、こちらは神戸での震災の記憶がよみがえる。

私の家も壊れてしまい、傾いた家の玄関に赤い紙が貼られ、ここは入ってはいけないということとなった。最初召集令状が来たのかと思ったほどだ。

29年前にわが家には猫がいて、名をコゴロウとつけていた。桂の家だから桂小五郎さんに

あやかった。あの日、朝5時すぎから家の外でニャオニャオといつもと違う鳴き声を出す。あまりのことに、妻が起きてエサを与えていた時、5時46分にドーンときた。あのまま寝ていたらタンスの下敷きになって命にかかわることになっていた。猫が命を助けてくれた。命の恩猫だ。そこで後日、コゴロウから木戸孝允に襲名させたが、何も喜ばなかったので、元のコゴロウに戻した。

一方、私は大きなドーンという揺れに目を覚まし六甲山が崩れたのかと思ったが、地震とわかり、テーブルの下で頭を低くしていた。少し揺れが収まった時、妻と着のみ着のまま外に出て、遠くを見ると炎が見えた。火事になっているところもある。いまだ暗い中、あまりの怖さと寒さにガタガタと震えていた。

6時を過ぎ少し明るくなった。しばらくして自分が手に持って逃げたものを見て驚いた。テーブルの上に置いていた小さなクリスマスツリー。何の役にも立たない。「一家の主(あるじ)がこの一大事にクリスマスツリー。こんな時何を考えてるの!」と言われるのは目に見えている。体の後ろに隠すのと、妻が見付けるのが同時だった。「あのね、こんな時は通帳とか印鑑とか、もっと大切なものを持って逃げなさいよ! 何持ってるの!」。私も負けず「1月も半ば過ぎて、こんなツリー片付けんさかいや!」と、ロゲンカしていたら、お隣のご夫妻が「そんなことより命があって良かったですよ」とありがたいお言葉。その通り、命が大切。そして地震で壊れないものが大切。例えば絆、他を想(おも)う心。私にとっては芸。

今年は正月からあらためて、大切なものを忘れずに生きねばと思い知らされた。

(かつら・ぶんちん=落語家)

＜桂文珍 落語的見聞録＞ 訃報欄に至芸をしのぶ



いつの頃からか、新聞の死亡欄に目が行くようになった。これも自分が年を重ねてきたせいかもしれない。次々と知っている方、以前共に仕事をした方々が黄泉（よみ）の世界へ旅立たれる。

先日も人形浄瑠璃文楽太夫、豊竹咲太夫師匠が亡くなられた。実は昔「三勝半七 酒屋の段」を稽古（けいこ）していただき、たびたび文楽と落語という取り合わせで二人会をして公私共にお世話になった。体調を崩しておられたのは存じ上げていたが、あまりに早いお別れに言葉を失いそうになった。歌舞伎界をはじめ他の芸能とも交流を重ねられた。私の落語「新版

豊竹屋」の原稿を持ち、ここのところに節（ふし）をつけたいのですが、と相談をしたところ文楽公演の休憩時間にニコニコ笑顔で応じて下さったのは今となっては私の宝になっている。

また、寄席の世界でずいぶん活躍され、紙切りという芸の極みを見せて下さった林家正楽さんも旅立たれた。私の落語会にもゲスト出演をしていただいた。

ご承知の通り、白い紙からハサミでさまざまなものを切る芸で、お客様のリクエストに応じる。ある日「白梅、紅梅を切ってほしい」との要望にどう応じなさるかという舞台のソデで観（み）ていると、坂道を走っている白バイをハサミであっという間に仕上げた。坂道の勾配とハクバイ。お見事！

その他、「闇夜のカラス」。これは難しい。すると、提灯（ちょうちん）をくわえたカラスが飛んでいる姿。ハサミ使いのすごさと、その頓知に驚いた。

落語「上手な絵を描く和尚」では、まことに鮮やかな絵を描く和尚を困らせてやろうと、長い巻物を持って男がやって来る。こんなに長いのに絵を描いては時間がもったいないと、この和尚、巻物の最初のところに矢を射る武将の姿を、巻物の一番最後のところに的（まと）を描いて、間は何も描かずに済ませた。なかなかの知患者だ。

落語「上手な絵を描く和尚」では、まことに鮮やかな絵を描く和尚を困らせてやろうと、長い巻物を持って男がやって来る。こんなに長いのに絵を描いては時間がもったいないと、この和尚、巻物の最初のところに矢を射る武将の姿を、巻物の一番最後のところに的（まと）を描いて、間は何も描かずに済ませた。なかなかの知患者だ。

男はでは次はと、白い屏風（びょうぶ）に絵に描けないものをと、太鼓と笛の音（ね）を描いてほしいと無理難題。音を描くのは難しい、さあどうするのか…と見ていると、屏風にサラサラと、太陽と槍（やり）を描いた。男がこれは何かと問うと「お天道（てんとう）様を槍で突くのでテンツクテンツクと太鼓、日（ひ）と槍でヒヤーリヒヤーリで笛の音」。男は和尚の頓知に負けて恥をかいた、とか…。

人間万事ユーマア…。今日一日を楽しみたい。

（かつら・ぶんちん＝落語家）

＜桂文珍 落語的見聞録＞大谷選手、段取りもスター級

2024年(令和6年)

3月21日
木曜日

神戸新聞社

〒650-8571

神戸市中央区東川崎町1-5-7

電話 (078) 362局

報道部 7040 文化部 7044

経済部 7094 販売局 7066

運動部 7095 事業局 7086

総務部 7047 FAX 7081

写真部 7047 FAX 7081

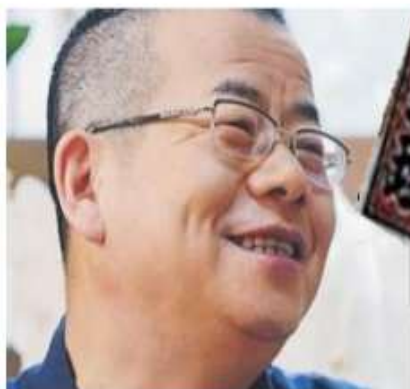
お読みセンター

078-362-7055

月～金 10～17時(土日祝休み)

神戸新聞

落語的見聞録



アメリカ大リーグの開幕戦、ドジャースとパドレスの試合が、お隣の韓国にて開催され、何で?と置いていたら、韓国出身の人気選手がいるのと、野球を世界マーケットに拡大させるためなんだそう。なかなかしっかり大リーグらしい商法だ。何しろ今や、世界の**大谷翔平**選手、**山本由伸**投手、そして**ダルビッシュ有**投手と、1年ほど前にWBCで日本が優勝した時のメンバー、日本で開催してほしかったなあ…と。

それにしても大谷選手は話題に事欠かない。バッターとしてもスゴイものがあり、何しろ新婚なのだ。お相手が、これまた身長180センチもあるバスケの選手だった方。ツーショットを、韓国に出発する前にインスタグラムで投稿、ドジャースの公式Xも2人の写真を公開、

とこのタイミングの良さ。人気者ゆえに、そのプライバシー公開も上手(うま)くやらないと、エライことになる。あれが仁川国際空港に着くまで公開されていないと、空港は大変な騒ぎになったことだろう。この段取りの良さ、タイミングの上手さ、大谷選手らしいし、ドジャースの広報マンの手際の良さにも感心した。

また新婦は、大谷選手によく似ている、つまり彼は自分のお母さんそっくりの人を選んだ、ということだ。男の子は母親に似るものだ、と小生の家内は言っていた。そして、犬とたわむれる大谷選手の動画が公開された時から、きっと一緒に住んでたのよ、あれだけ活躍しトレーニングに忙しい人が犬の世話、誰かいないと無理でしょ、と、のたまう。大変な推理、洞察力、さすがしゅっちゅうサスペンスドラマを観(み)ているだけのことはあると、小市民的な感心をした。しっかり予定を立て確実にそれを実行していく。きっと今年も大活躍してくれることだろう。

落語「時うどん」では、2人合わせた銭が十五文しかないが十六文のうどんを1杯食べるために頭を使って食べようと、清八が喜六と、うどん屋へ。いざ勘定の時「銭が細かいので手を出してくれ」「ヘイ」「一つ、二つ、三つ…八つ、うどん屋、今何時(なんどき)や」「ヘエ、九つ」「十、十一、十二…」と、一文ごまかす。それはいい手だと、喜六は次の日、同じ時刻に行けば良かったのに、早い時刻からうどん屋に行き、失敗するという噺(はなし)。

落語の世界は計画倒れになる。大谷選手は計画どおり、今年も楽しめます。

(かつら・ぶんちん=落語家)